

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		10月30日現在	11月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	154.13	148.0	～	158.0
	FRBタカ派・日銀ハト派との受け止めで短期的にはドル買い円売り続くか				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.157	1.14	～	1.20
	ユーロ・円 (円)	178.25	168.0	～	182.0
	様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅さが継続				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.315	1.28	～	1.33
	ポンド・円 (円)	202.70	196.0	～	205.0
	財政に関する懸念一巡で月末にかけて対ドル、対円で底入れする展開を想定				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	101.03	96.0	～	104.0
	NZドル・円 (円)	88.51	85.0	～	91.0
	米中貿易交渉の行方が豪ドルの鍵を握る展開か				
株式 相場	日経平均 (円)	51,326	48,000	～	53,000
	高バリュエーションで推移する相場に慣れる必要がある				
	NYダウ (ドル)	47,522	46,000	～	50,000
	ハイテク株が指数上昇を牽引しよう				
長期 金利	日本 (%)	1.656	1.60	～	1.70
	日本銀行の利上げ期待が維持され長期金利は高止まり				
	米国 (%)	4.097	3.80	～	4.30
	米経済は中期的に底堅く推移し、金利は小幅に上昇しよう				

◆ 今月の注目ポイント

高市内閣の政策検証と株高の行方

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	◎	【米国政府機関閉鎖】11/4に過去最長の35日間の政府機関閉鎖となるのは確実な情勢となっている。足もとで明確な弊害は起きていないものの①指標の公表が遅れることによる的確な金融政策判断ができないこと②一部試算で指摘される1週間で0.1-0.2%のGDP押し下げ等の弊害が実体経済に顕在化する可能性がある。政府部門中心のリストラも進められており、失業率の急速な悪化等ファンダメンタルズの急激な変化につながる可能性がある。
政治	◎	【高市内閣の政策検証】足もとで内閣支持率が70%に達するなど高市内閣の支持率は高く、期待感強い。特に金融市場では「責任ある積極的な財政」や金融引き締めへの慎重なスタンスが好感されている。株式市場は堅調に推移しているが、今後は本当に政策が期待感に沿ったものとなるか検証しつつの相場展開となる可能性がある。一方向の株高の反動等、ポジションが傾いていることから、高値波乱となる可能性には留意したい。

◆ アジア通貨見通し

	10月30日現在	11月の予想 (月末値)		
人民元・円	21.68	21.00	～	22.00
バーツ・円	4.762	4.60	～	4.85
ルピア・円	0.927	0.86	～	0.94

◆ 今月の重要日程

3日 (月) 米 10月ISM製造業景況感指数	19日 (水) 米 FOMC議事要旨(10/28-29)
5日 (水) 日 日銀金融政策決定会合議事要旨(9/18-19)	19日 (水) 米 NVIDIA決算
5日 (水) 米 10月ADP雇用統計	24日 (月) 独 11月IFO景況感指数
5日 (水) 米 10月ISMサービス業景況感指数	25日 (火) 米 11月消費者信頼感指数
6日 (木) 英 BOE金融政策委員会	26日 (水) 米 地区連銀報告
17日 (月) 日 7-9月GDP	28日 (金) 米 ブラックフライデー

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

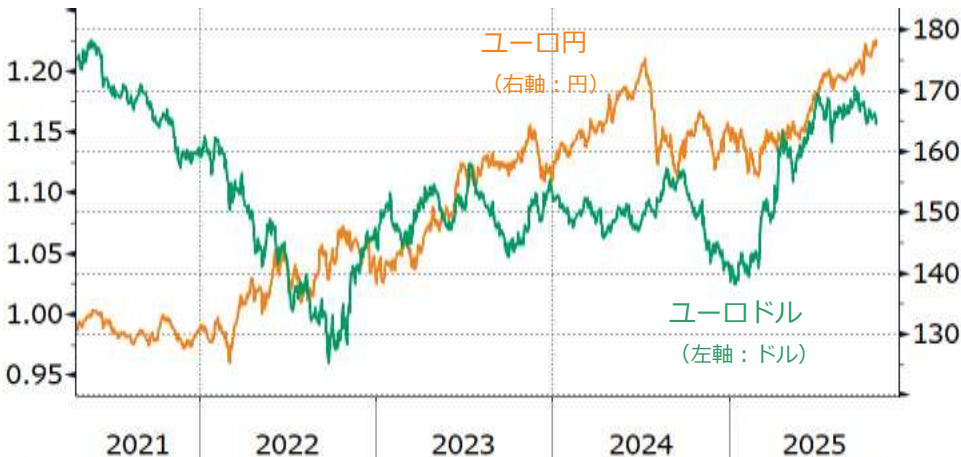
148.00 – 158.00円

FRBタカ派・日銀ハト派との受け止めで短期的にはドル買い円売り続くか

10月のドル円は、月初に大きく上昇した後、月末にかけて高止まりが続いた。4日の自民党総裁選での高市氏当選がサプライズとなり、同氏の掲げる拡張財政的な政策が意識されたため、過明けには円が大きく売られた。その後も、29日の米FOMCでは利下げが決定されたものの、パウエル議長が次回12月会合における市場の利下げ期待をけん制する発言をしたことでドル買いが優勢となり、さらに翌30日の日銀決定会合後に行われた植田総裁による記者会見では、早期の利上げに慎重との見方から円売りが優勢となって、ドル円は一時154円台をつけた。

11月のドル円は、150円台前半を中心に、市場の織り込む日米ターミナル金利差と期待インフレ差を反映した理論値である150円付近をやや上回るレンジでの推移を想定している。現状の理論値との乖離は、主に日銀による足元の利上げ観測後退や、高市首相の拡張財政的な政策に対する警戒が主因であろう。17日に公表される本邦GDP統計はマイナス成長となる可能性が高いとみられ、日銀の早期利上げを阻害する要因となろう。また、高市首相の財政拡張路線も最終的にはマイルドなものにとどまることが想定され、円売りの動きは長続きしないとみているものの、短期的には財政拡張的な政策に対する期待感が大きく、円が売られやすい地合いとなろう。

ユーロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

168.00 – 182.00 円

様子見姿勢を維持するECBのもと、ユーロは底堅さが継続

10月のユーロは、対ドルでは小幅に下落した一方、対円では上昇が続きユーロ導入以来の最高値を更新した。上旬にはフランスのルコルニュ首相が辞任したことで政局不透明感が増し、ユーロは売りに押される場面があった。もっとも、その後同氏が再度首相に指名され、野党による内閣不信任決議を否決で乗り切ったことで、足元の不透明感は幾分後退している。対円では、高市首相就任を受けた財政拡張観測などのいわゆる「高市トレード」によって堅調な推移が続いた。

11月のユーロは、対ドルでは現状程度の水準で底堅い推移を見込んでいる。フランスでの予算案を巡る不透明感が下押し要因として意識される一方、ユーロ圏経済や金融政策に対する見方は前月から著変ない。ECBが当面様子見姿勢を維持するとの見方が、米FRBの利下げ継続観測との対比でユーロの相対的な底堅さを支えるとみられる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.28 – 1.33ドル

ポンド円

196 – 205円

財政に関する懸念一巡で月末にかけて対ドル、対円で底入れする展開を予想

10月の英ポンド相場は対ドルで軟調に推移し、対円で底堅く推移した。英国で財政懸念が高まるなか、増税や歳出削減が意識される環境となり、英国金利は徐々に低下傾向。英ポンドも下値を探る展開となった。特に11月の「2025年秋予算」が財政赤字の削減と経済成長のバランスを取る観点で、税制改革や支出見直しが行われることが警戒され、英ポンドは一段と軟調に推移する展開となり、1.30の節目に迫る展開となった。また対円では月初に日本で高市氏が首相となり日本の財政拡張や利上げ先送り意識され英ポンド円は一気に上昇し205円台をつける場面も見られた。その後も高値圏での推移となっている。

11月の英ポンド相場は下値模索後反発を予想。下旬の2025年秋予算公表を控えて、緊縮財政への警戒から下値を探ることが予想される。しかし、既に過度な警戒の領域に入っており、下げ渋りをみせており、発表前後には反発する展開を見込む。対円では円売り一服を受け下落する場面も想定されるが、徐々に英ポンドに見直し買いが入り下値を固める展開となろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

96.00 – 104.00円

NZドル円

85.00 – 91.00円

米中貿易交渉の行方が豪ドルの鍵を握る展開か

10月のオセアニア通貨は、対ドルでは横ばいでの着地、対円では上昇した。上旬にはNZ中銀が50bpsの大幅利下げを決定したことや、豪雇用統計が弱い結果となったことを受けて弱含んで推移したが、月末にかけては米中貿易協議に進展の兆しがみられたことや、四半期ごとの豪CPIが市場予想を上振れたことを受けて、豪中銀による11月利下げ観測が後退し、豪ドルは上昇に転じた。対円についても概ね同様の動きとなったが、月初に本邦の政局不透明感の高まりを受けて円安が進行したため、豪ドル円は上昇している。

11月のオセアニア通貨は、米FRBの利下げ継続観測や米中貿易交渉の進展を背景とした投資家のリスク選好を追い風に、堅調さを維持しそうだ。加えて、豪中銀の年内利下げ観測の後退も引き続き豪ドルを下支えする要因となるが、市場の予想に反して利下げが決定された場合はサプライズとなり、豪ドルは売りが優勢となる場面がありそうだ。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

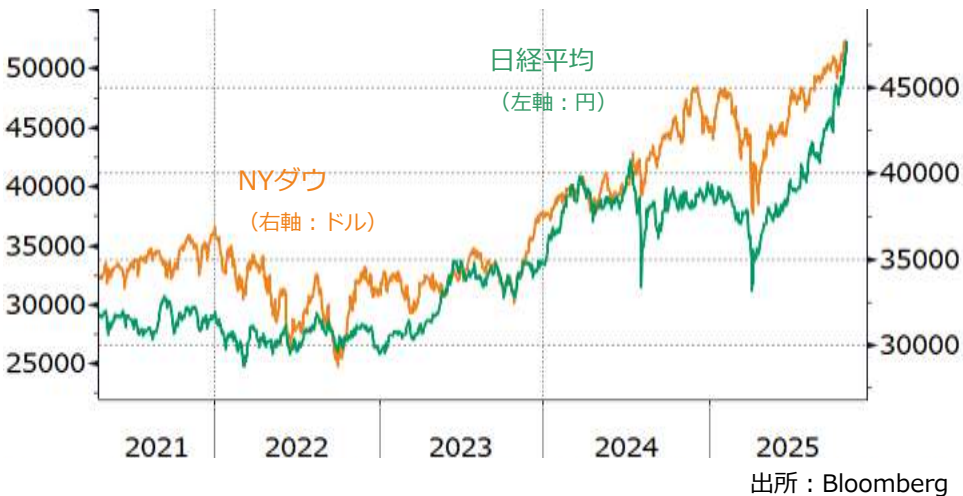
2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

48,000 – 53,000円

高バリュエーションで推移する相場に慣れる必要がある

日経平均株価のフェアバリューは47,000円 – 50,000円程度とみられる。高値警戒感から、ショートする動きがみられる場面もあるが、結局それらが杞憂に終わり、ショートカバーが発生する流れを繰り返している。米国景気には底入れの兆しがあり、FRBが利下げを進めていること等を踏まえると、企業業績は改善を続ける可能性が高く、今後もボラティリティを伴いながら高値を更新していく可能性が高い。

NYダウ

46,000 – 50,000ドル

ハイテク株が指数上昇を牽引しよう

米国株の決算は概ね良好な内容。足元までに決算発表した企業の純利益は事前予想を18.4%上振れている。ただし、好業績企業とそうでない企業でやや二極化している点には留意。AIブームが持続しており、関連企業の業績は極めて堅調であり、各種統計データを踏まえると、今後も良好な決算が続く公算が大きい。米国株は、業種間格差を生みながら最高値を更新しよう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.60 – 1.70%

日本銀行の利上げ期待の維持と財政拡張懸念で長期金利は高止まり

日銀は10月30日の金融政策決定会合で政策金利を据え置いたものの、底堅い景気見通しを示したことで、次回12月の会合での利上げ決定の可能性を維持した。また、女性として初の自民党総裁と内閣総理大臣となった高市氏は、ガソリン暫定税率廃止、高校無償化、年収の壁引上げ、防衛費増額の前倒しなど、就任直後から財政拡張色を強めている。日銀利上げ期待と財政拡張懸念で長期金利は高止まりが続くそう。

米国債10年

3.80 – 4.30%

基本的な見方に変化はない。米経済は中期的に底堅く推移しよう

米金利は4.15%～4.25%程度を妥当レンジとみている。期待インフレ率の低下を反映し、妥当レンジを下方修正した。もっとも、市場想定よりも米経済が底堅く推移するとの見通しは維持している。労働市場の軟化は、低スキル人材が中心で、富裕層が米経済を支える構図に変化はない。こうした状況下では、労働市場が軟化する中でも、株高や各種減税政策の影響等も相まって、個人消費は堅調となり、そうした状況が確認されるにつれて、金利は小幅に上昇しよう。

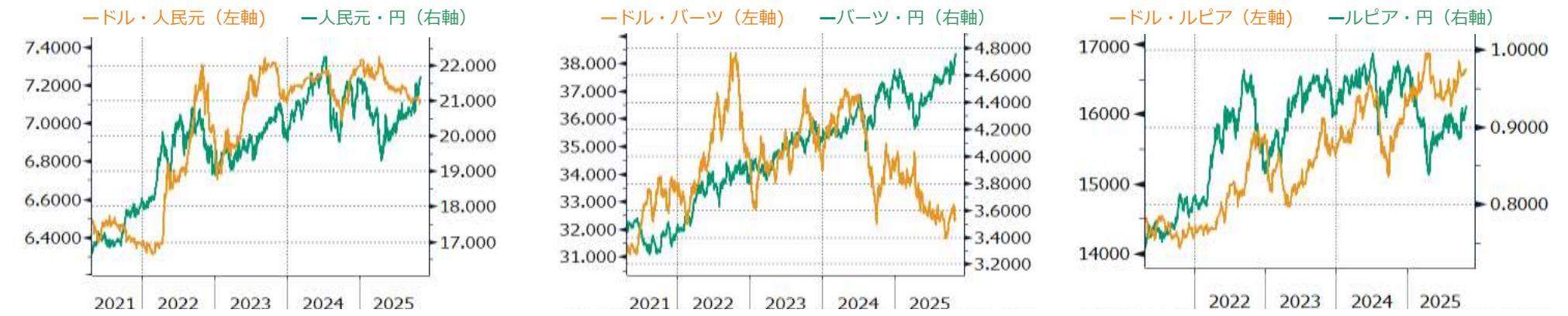
◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		11月の予想			見通し
中国	人民元/円	21.00	～	22.00	米中貿易交渉が最悪な結果を回避することでドル/人民元はレンジを切り下げか トランプ米大統領は、中国によるレアアースの輸出規制に不満を示し、11月1日から中国に100%の追加関税を課すとの強硬的な姿勢を示してきたものの、習中国国家主席との協議をしたことによって、最悪な結果は避けられる見通しがついた。今後も相互関税は残ることで米中の貿易対立が続くことになるが、その深刻化が避けられることによって、ドル/人民元は先月よりはレンジを切り下げた推移になりそうだ。
	ドル/人民元	7.05	～	7.15	
タイ	バーツ/円	4.60	～	4.85	巻き戻しの動きが出やすく、対ドルで反発、対円で軟調な展開 9月に打たれた一連のバーツ高対策が奏功するなかで、中旬にかけて軟調に推移。しかし、下旬にかけては対ドルでの下げ幅を縮小。米国と為替操作を回避することを改めて確認したこともタイバーツの支援材料となった。一方対円では高市氏の首相就任を受けた円安に97年以来的水準まで対円で買われた。11月は対高市首相の政策を見極めつつ、徐々に円売りが一服し、対円で上値の重い展開を見込む。対ドルでは巻き戻しの買いがしやすい。
	ドル/バーツ	31.5	～	33.0	
インド	100ルピー/円	0.86	～	0.94	国内の政局・財政不安が継続しルピア安圧力となりやすいか 10月のルピアは、対ドル対円ともにややルピア高となったが、月初に為替介入の効果もあってルピア高が進行した後は、22日の中銀会合において予想外に金利据え置きが決定されたにもかかわらず、月末にかけて上値が重く推移した。11月もルピアは軟調な展開が想定される。国内の政局や財政を巡る不透明感には払拭されにくい。加えて、日銀の年内利上げ観測が高まれば対円でもルピア安に振れる場面がある。
	ドル/ルピア	16,500	～	17,200	



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年			2026年								ポイント	
		11～12月			1～3月			4～6月			7～9月			
ドル円	レンジ	135		155	140	～	160	140	～	160	140	～	160	日米金融政策の織り込みはある程度進んでいるが、米関税の影響がインフレ指標に表れ始めれば、FRBによる利下げ観測後退からやや円安が進行か。
	期末値	149			150			150			149			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて今春より急速にユーロ高となった。関税合意の進展から一定程度ドル買い戻しの動きもあるうが、ECBは当面は様子見とのスタンスが示されたことでユーロは引き続き堅調に推移しそうだ。
	期末値	1.16			1.18			1.18			1.18			
ユーロ円	レンジ	160	～	180	160	～	180	160	～	180	160	～	180	
	期末値	173			178			178			178			
ポンドドル	レンジ	1.28	～	1.40	1.30	～	1.40	1.25	～	1.35	1.25	～	1.35	英ポンド買いの流れが財政懸念もあり一服。金融政策面でも米利下げが徐々に一服となり、対ドルでじり安推移。一方対円では方向感に乏しい。政治的な不安定さから英財政リスクは英ポンドの上値を抑える要因となろう。
	期末値	1.34			1.34			1.30			1.30			
ポンド円	レンジ	185	～	205	185	～	205	185	～	205	185	～	205	
	期末値	198			201			192			192			
ドル人民元	レンジ	7.05	～	7.20	7.00	～	7.15	7.00	～	7.15	6.95	～	7.10	米中の貿易交渉は膠着状態が継続していることから、ドル/人民元のレンジ相場は継続する。FRBは利下げ継続していく見込みであるものの、関税によるインフレ懸念もあることから、利下げペースは緩やかとなり、ドル/人民元の下落も緩やかになる。
	期末値	7.15			7.10			7.10			7.05			
人民元円	レンジ	20.00	～	22.00	20.00	～	22.00	20.00	～	22.00	20.00	～	22.00	
	期末値	20.83			21.13			21.13			21.13			
豪ドル円	レンジ	92	～	104	92	～	104	92	～	104	94	～	106	豪中銀は今年2月より利下げ局面入りし、漸進的な利下げパスを見込む。利下げによる経済回復期待から、次第に豪ドルは上昇局面入りか。
	期末値	98			99			99			101			
タイバーツ円	レンジ	4.20	～	4.90	4.20	～	4.80	4.30	～	4.90	4.30	～	4.90	足もと対円での買い一服から調整も、観光業の回復、景気支援策から徐々に底入れへ。
	期末値	4.70			4.60			4.60			4.60			

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

6

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
11/2(日)		(夏時間終了)	
11/3(月)	(文化の日)	10月ISM製造業景況指数	(中) 10月製造業PMI
11/4(火)		9月製造業受注	
		9月貿易収支	
11/5(水)	10年債入札	10月ADP雇用統計	
	日銀金融政策決定会合議事要旨(9/18 ～19開催分)	10月ISM非製造業景況指数	
11/6(木)	9月毎月勤労統計 (速報)		
11/7(金)	9月家計調査	10月雇用統計	
11/9(日)			(中) 10月CPI
11/10(月)		3年債入札	
11/11(火)	10月景気ウォッチャー調査	(退役軍人の日)	(独) 11月ZEW景気指数
	30年債入札		
11/12(水)		10年債入札	
11/13(木)	10月企業物価指数	10月CPI	
	5年債入札	30年債入札	
11/14(金)		10月PPI	(中) 10月生産・小売・投資
11/17(月)	7-9月期GDP (一次速報値)	11月NY連銀製造業景気指数	
11/18(火)			
11/19(水)	10月貿易統計	10月住宅着工・許可件数	
	20年債入札	20年債入札	
	9月機械受注	FOMC議事要旨	
11/20(木)		10月中古住宅販売	
		11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
11/21(金)	10月消費者物価指数		(欧) 11月PMI (速報値)

	日本	米国	その他
11/23(日)	(勤労感謝の日)		
11/24(月)	(振替休日)	2年債入札	(独) 11月IFO企業景況感指数
11/25(火)		11月消費者信頼感指数	
		5年債入札	
11/26(水)	40年債入札	10月個人所得・消費支出	
		10月新築住宅販売	
		7-9月期GDP (改定値)	
		7年債入札	
		米地区連銀経済報告	
11/27(木)		(感謝祭)	
11/28(金)	10月鉱工業生産		
	10月住宅着工件数		
	10月労働力調査		
	2年債入札		
11/30(日)			(中) 11月PMI



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/10～16】

◎ 中国人の訪日消費が好調、客数増が押し上げ、平均額は減少

中国人の訪日消費が好調、客数増が押し上げ、平均額は減少
訪日中国人の消費が引き続き好調に推移している。日本の観光庁によると、訪日中国人による2025 年7 月-9 月期の旅行消費額は前年同期から2 割近く伸び、総額は国・地域別で最大比率となった。中国人の訪日旅行のスタイルに変化が表れている中では、顕著なのが「お一人様」による旅行の浸透だ。ただ 1 人当たりの平均額は減っており、財布のひもを締める中国人の節約志向も反映した形だ。

【10/18～23】

◎ 3Q のGDP 成長率4.8%、前四半期比鈍化も、目標達成へ

中国国家统计局は2025 年第3 四半期（7-9 月）の実質国内総生産（GDP）の成長率が前年同期比4.8%だったと発表した。1-9 月期の不動産開発投資は前年同期比13.9%の減少、都市部固定資産投資も0.5%減となった。
消費分野をはじめとする各種の政策支援と堅調な輸出が成長率を下支えした。1-9 月期の成長率は5.2%で、政府が定める今年の成長率目標「前年比5%前後」の実現が近づいてきた。

主要経済指標

項目	単位	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9
実質GDP成長率	%	-	5.4	-	-	5.4	-	-	5.2	-	-	4.8
消費者物価上昇率	%	0.2	0.1	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0	-0.4	-0.3
都市部調査失業率	%	5.0	5.1	5.2	5.4	5.2	5.1	5.0	5.0	5.2	5.3	5.2
輸出額	10億ドル	311.9	335.6	324.3	214.8	313.1	315.1	315.7	325.0	321.4	321.6	328.6
輸入額	10億ドル	214.6	230.5	186.3	183.6	211.1	219.2	212.8	210.6	223.5	219.4	238.1
経常収支	100万ドル	-	423,919	-	-	165,449	-	-	294,149	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,265.9	3,202.4	3,209.0	3,227.2	3,240.7	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.21	7.28	7.31	7.28	7.25	7.30	7.21	7.18	7.17	7.17	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利 出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○ディスカウントスーパーの競争が激化(右下写真)

ディスカウントスーパー市場は、「好特卖（ホットマックス）」やドイツ系の「アルディ（奥楽齊）」が人気を集めています。需要拡大を商機とみて、京東、アリババ、美团といった中国を代表するプラットフォーム企業3社が揃ってディスカウントスーパー事業に力を入れ、注目を集めています。

プラットフォーム各社は、巨大なサプライチェーンの活用で商品を安く仕入れる強みを生かし、自社商品の品揃えを強化し、コスパ重視の層を取り込み、スーパーマーケットのシェア拡大を狙っています。

アリババ傘下の盒馬は、ディスカウントスーパー「盒馬NB」の開店に注力し、今年100店舗を出店する計画があります。「盒馬NB」は8月までに店舗数が300店を超え、自社商品の取り扱いが売上高の6割を占めています。京東は8月に河南省で「京東ディスカウントスーパー」1号店を開店し、将来的に天津や安徽省・山東省にも店舗展開を図っています。美团は、「快樂猴」を北京市に1号店、浙江省杭州市に2カ店をそれぞれ開店し、1,000店舗を目指しています。

ディスカウント市場は、2023年に約1兆7,900億元（37兆5,900億円）の規模となり、小売売上高に占める割合が3.8%になったと報告されています。消費者のコスパ重視の志向が高まり続け、市場規模は今後も拡大すると予測されています。

○国慶節連休の人出が過去最多

大型連休「国慶節」が10月1日に始まりました。中秋節と国慶節の連休が重なり8連休となり、前年の同連休と比べて1日増えました。文化観光省のデータによると連休中の国内旅行者数は延べ8.8億人に達し、前年対比+1.2億人となり過去最多を更新しました。

特に20代は前年対比+61%と増加が顕著でした。若者は以前のSNS映えを目的とした旅行から、特別な体験をして満足感を得る旅行に変化する傾向が見られます。民俗工芸品の手作り体験、コンサート観賞、アウトドア・キャンプ、マイカー旅行など、体験に重きを置く人が増えています。有名観光地等の大混雑を避け、小規模都市やマイナーな観光地に足を伸ばす傾向にあります。



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2025年8月の景気、前月から減速

- ・タイ中央銀行は2025年8月の経済報告書で、タイの経済は前月から減速した。農業と製造業が鈍化したことが主因となった。
- ・鉱工業生産指数は前年同月比4.2%減と前月に続いて2カ月連続の下落となった。自動車大手の生産ライン移設に伴う一時的な生産停止等が要因として挙げられる。ハードディスクドライブ（HDD）、プリント基板アセンブリ（PCBA）、電子部品の生産は増えた反面、アルコール飲料の生産は落ち込んだ。
- ・民間投資は同9.2%増と安定的に推移した。機械・設備投資は縮小したが、建設投資は工場および商業施設の建設によりわずかに増加した。民間消費は同1.9%増だった。耐久・準耐久消費財は落ち込んだが、非耐久財は増加した。観光部門は国内外の旅行者の回復に支えられ、観光収入も前月から加速した。

◆ 2025年1～8月の自動車生産台数、前年同期比6.1%減

- ・タイ工業連盟（FTI）によると、2025年1～8月の自動車生産台数は94万7,697台で、前年同期比5.8%減となった。内訳は乗用車が34万6,240台（同7.9%減）、商用車が60万1,457台（同4.5%減）となった。
- ・動力源別での乗用車の生産台数は、内燃エンジン車（ICE）は同32.8%減の16万2,369台、バッテリー式電気自動車（BEV）は同497.5%増の3万4,998台、ハイブリッド車（HEV）は同9.5%増の13万6,545台、プラグインハイブリッド車（PHEV）は同207.2%増の1万2,328台だった。
- ・国内の新車販売台数は前年同期比0.1%増の39万9,945台。8月単月では前年同月比5.4%増の4万7,622台と5カ月連続でプラスとなった。
- ・電気自動車の新規登録台数（乗用車のみ）は、前年同期比22.4%増の18万4,300台。
- ・完成車輸出台数は前年同期比12.4%減の60万2,975台で、輸出額は同15.3%減の4,067億7,730万バーツとなった。

主要経済指標

項目	単位	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9
実質GDP成長率	%	-	3.3	-	-	3.2	-	-	2.8	-	-	-
消費者物価上昇率	%	1.0	1.2	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7
失業率	%	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	25,638	24,765	25,277	26,707	29,548	25,625	31,045	28,650	28,581	27,743	-
輸入額	100万ドル	25,661	24,638	27,157	24,719	28,575	28,946	29,928	27,588	28,259	29,708	-
経常収支	100万ドル	1,546	2,622	3,445	6,164	1,549	-1,606	-561	3,108	2,397	-1,500	-
外貨準備高	10億ドル	237.5	237.1	242.1	244.8	245.3	256.8	257.6	262.4	261.9	267.4	273.3
主要政策金利	%	2.25	2.25	2.25	2.00	2.00	1.75	1.75	1.75	1.75	1.50	1.50
対ドル為替レート	バーツ	34.5	34.2	34.2	33.8	33.8	33.8	33.0	32.6	32.5	32.4	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年11月号)

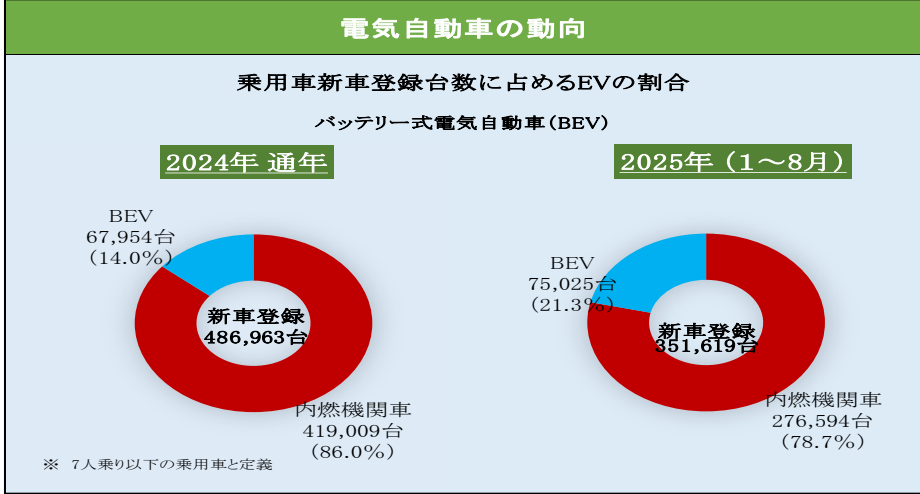
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

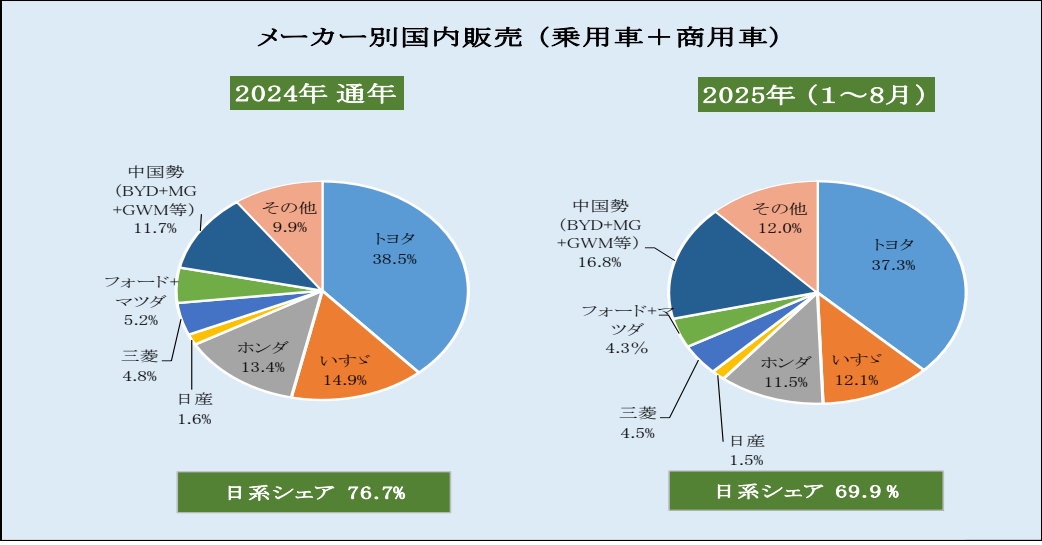
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2022年	2023年	2024年	2025年 (1～8月)	前年同期比 (%)	8月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	600,839	648,803	558,440	346,240	92.1	43,172
		商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	601,457	95.5	69,194
		合計	1,883,515	1,841,686	1,468,997	947,697	94.2	112,366
	国内販売台数	乗用車	265,069	292,505	224,148	154,766	100.4	18,168
		商用車	584,319	483,275	348,527	245,179	100.2	29,454
		合計	849,388	775,780	572,675	399,945	100.1	47,622
輸出台数		1,000,256	1,117,539	1,019,213	602,975	87.6	71,179	
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	1,358,200	105.3	150,973	
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	1,180,906	101.5	130,283	
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	570,018	107.2	62,590	
【完成車輸出金額】 (百万パーツ)								
四輪			619,348	719,992	699,163	406,777	84.7	45,553
二輪			73,729	68,589	63,969	41,412	99.3	4,438

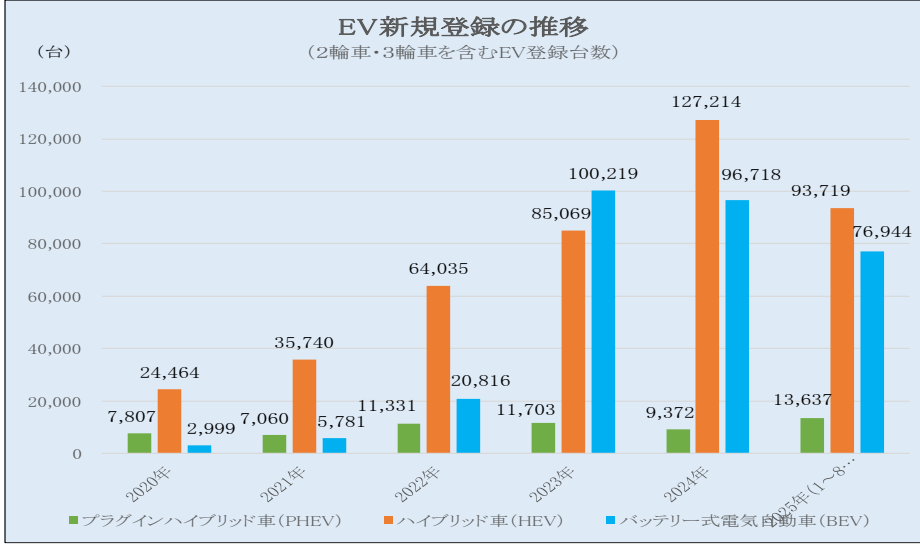
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局